

# 聖霊会関連施設でのラウダート・シの取り組み

聖霊奉侍布教修道女会(聖霊会)

## 秋田聖霊学園 アルミ缶回収で「子どもどうし助け合おう!」プロジェクト

秋田聖霊高校の部活動「聖母会」は、教皇庁児童福祉会としての活動を始めました。

日本ではあまり知られていませんが、教皇庁宣教事業児童福祉会(児童宣教会)は教会やカトリック学校で活発に活動しています。本会の姉妹は、聖霊会で関わっている学校の宗教部や同好会でこの活動ができないか模索していました。秋田聖霊高校「聖母会」は約 100 年続いている部活動です。さまざまな奉仕活動をしてきましたが、コロナ禍で活動ができなくなっていた時に、聖霊幼稚園と高校で連携してできる活動として、「世界子ども助け合いの日」に献金することを考えました。「世界子ども助け合いの日」は、教皇庁児童福祉会からの呼びかけで、日本や世界の困っている子供たちを支援するためのものです。ただ募金活動をするのではなく、協力して 1 年間を通しての活動として、2021 年度、アルミ缶回収で「子どもどうし助け合おう!」プロジェクトを実施しました。これからもこの小さな聖霊学園合同プロジェクトを継続していき、世界の子どもたちとつながりを持つことを希望しています。

1. 高校生たちは、まず次のような手紙を幼稚園の子どもたちに書きました。

### せいれいようちえん・ほいくえん のみなさんへ

カトリック教会(きょうかい)では、まい年(とし) 1 月(が)つ)のさいごの日(に)ち)ようびに、「世界(せかい)子(こ)どもたすけあいの日(ひ)」があります。この日に、せいれいようちえんのみなさんと、せいれいこうこうの私(わたし)たちで、けんきん' をしようとおもっています。

けんきん' というのは、世界(せかい)の子どもたちがしあわせになりますように…と、ねがい、お金(かね)をささげることです。

その'けんきん' するお金(かね)をあつめるために、みなさんに あきかん' をたくさんもってきてほしい、とおもっています。おとうさんやおかあさんの飲(の)んだビールのあきかんや、みなさんがのんだジュースのあきかんを、洗(あら)ってからもってきてほしいのです。

みなさんがもってきてくれたあきかんが あつまったら、せいれい高校(こうこう)の私(わたし)たちがそのあきかんをぺったんこにつぶしてあるところへもっていきます。もっていくと、そこでみなさんのあつめてくれたあきかんがお金(かね)とこうかんされます。

世界(せかい)には、こんなふうに、あきかんなどのごみをあつめてお金(かね)にしている人もいます。しかし、あきかんとこうかんできるお金(かね)はほんのちょっとです。

はたらいっているますしい子(こ)どもたちに心をよせ、来年(らいねん)の「世界(せかい)こどもたすけあいの日(ひ)」にむけていっしょにかつどうしましょう。



子どもたちは持ってきた缶を幼稚園に設置された箱に入れる。

聖母会(せいぼかい)より

2. 2021年の2月から、幼稚園で保護者の協力により月に2回、アルミ缶の回収を始めました。それを高校の聖母会の部員が持って行って一つずつつぶして、危険なくつぶれたものだけをまた幼稚園に戻してくれます。それを5歳児の子どもたちと近くのスーパーの店頭にあるアルミ缶回収箱に持って行って10個入れると5円に換金されます。  
初めて換金した金額は60個でたった30円…。子どもたちは、お金を貯めるというのは大変なことだということを体験し、このようにリサイクルできるものをゴミの中から集めて業者に持って行って換金して生活している人たちが日本にも世界にもいることを知りました。集まった缶はアルミ缶だけで54kgありました。高校生たちがこれだけの缶をつぶすのは大変な作業でしたが、世界のあちこちで労働に就く子どもたちに思いを寄せて頑張りました。
3. この一年を通して子どもたちが缶を持って行って換金した金額は合計255円、きれいにつぶれなかった缶と修道院から集めた金属の缶類を集めてグリーンステーションで換金した金額は4,710円、その他外部からの寄付を合わせて、2022年1月の「世界子ども助け合いの日」に献金しました。
4. シンプルなこのプロジェクトを通して子どもたちが労働の大切さと大変さを学び、貧しい中で一生懸命生きている人たち、特に子どもたちとの連帯、幼稚園児と高校生との連携を体験し、社会のためになる喜びや達成感などを味わってほしいと願っています。ラウダート・シの環境保全、貧しい人々との連帯にもつながり、「できることから始めよう!」わたしたちの小さなSDGsへの参加でもあります。



高校生たちが缶を集め、つぶす



つぶしたアルミ缶を回収箱に



初めて輝く5円玉をゲットした時の子どもたちの喜び